

その1

玉川学園正門前の踏切（鶴川5号踏切） 2020年までの改良実施が決定！

国土交通省は2017年1月27日、事故や渋滞など課題があり、改良の必要な踏切として、全国計529カ所を追加指定しました。今回の指定は「改正踏切道改良促進法」に基づくもので、町田市では、玉川学園正門前の鶴川5号踏切を含む計4カ所が指定されました。

自治体や鉄道事業者などの関係者は、指定を受けた踏切について、原則として2020年度までに改良を実施する義務を負います。

皆様ご存じのとおり、玉川学園正門前の踏切付近では、朝夕の渋滞が課題となっています。また、踏切内の歩行者通行には安全性に課題があり、2011年には事故も発生しています。

私は従前から、町田市に対してこの踏切の改良を求めてきました。

2013年12月議会では、一般質問の場において、次のようなやりとりもしています。

巖太郎：踏切の幅を広くすれば、交通の利便性が上がるのではないか。

町田市：踏切の幅は既に7メートル確保されており、拡幅は難しい。

巖太郎：日頃、踏切を利用する中で違和感があったため、夜中に自分で測ってみたところ、踏切前後の道路幅より踏切内の幅が狭くなっていることがわかった。

（一番狭くて6.2メートル）

理由は、歩行者通行部分にガードレールのようなものが飛び出ているため。

7メートルが確保されていない現状を把握し、改良を求む。

また、歩行者通行部分のカラー舗装の補修を求む。

町田市：幅員については現地を確認する。カラー舗装は補修する。

町田市議会議員

渡辺げんたろう

昭和48年 町田市玉川学園生まれ 玉川学園在住

玉川中央幼稚園／町田市立第五小／町田市立南大谷中／都立町田高校／

日本大学法学部法律学科卒／新光証券(現みずほ証券)勤務

平成22年町田市議会初当選

平成26年2期目当選

平成28・29年度町田市議会災害対策委員長



党利、党略、政局よりも 町田が良くなることを 第一義に！

消防団第一分団第五部部长／エイサー町田琉二代目会長／消防少年団副団長／神輿会「幸神睦」会員

その2 町田市『防災安全部』が新設されます！！

2017年4月、町田市「市民部」から、防災安全にかかわる機能を独立させた「防災安全部」が新たに設置されます。

これは防災安全にかかわる組織の「課」から「部」への事実上格上げであり、初当選の頃より危機管理体制の拡充に向けた組織の改変を強く求めてきた私の悲願でもあります。

未曾有の大災害と言われた東日本大震災から6年の月日が流れました。
災害の教訓をいかして各種法改正がなされてきている一方で、行政組織の改革やリーダーの機能向上といった課題が繰り返し指摘されています。

市町村のリーダーである首長の防災に対する考え次第で、地域の防災力に差がでてきているのが現状です。

市民からすれば、どこに住むかによって、安全安心に格差が生じる世の中です。

私は東日本大震災の以前から、町田市の災害対応能力の向上を様々な角度から市議会で提案し、実践してきました。組織についてもそうです。

危機管理においては、縦割り行政による対応の遅れが一大事につながります。

組織が全体として適切に対応するため、経営トップがその責を担うことが必要です。

また、不測の事態に備えて、あらかじめ組織を整備し、人事の配置を考え、権限の配分などを決めておくのが、危機管理の基本です。

そして町田市では2017年4月、危機管理に関する組織の改変がとうとう実現します。

「防災安全部」の新設にともない、危機管理における迅速な意思決定と応急対応が可能になります。また、今年には町田消防署が中町から本町田へ移転し、一大防災拠点として整備されます。

2017年は町田市の歴史上、「防災安全部の新設」と「消防署の移転」という、防災に関する大きな変化が2つもあることとなります。町田市の防災能力は飛躍的に向上します。

町田市の災害対応能力の向上は、幾度となく凄惨な災害現場を目の当たりにしてきた私の悲願でもあります。

今後も、「大学との防災会議の開催・連携」、「他市との防災連携」、「市職員の非常参集体制」など、具体的な取り組みとして災害対応能力の向上を提案し、実現に向けて邁進してまいります。